



★高取小学校の取り組み

高取小学校では、校庭の南側を流れる「稗田川」とかわる活動を教育活動に多く取り入れています。それらの活動は本校の特色として、6年間を通じて、体験学習の柱として取り入れています。低学年では生活科、高学年では総合の時間で、土手の散策、草花の観察、生き物の観察、川遊び、清掃活動、ひえ田川の日にてウォークラリー、第二校歌「ふるさとの川稗田川」の合唱などの活動を行っています。その他課外の活動として、地域の「カルガモ会」やNPO高浜「清流会」との清掃やお楽しみイベントなどへの参加もしています。

部活動として「ひえ田川クラブ」があり、もっと川と仲良くなりたい子がさらなる活動を行っています。

◎ひえ田川クラブの活動について

ひえ田川クラブは、4年生14人、5年生11人、6年生6人の31名で活動しています。顧問は職員4人で担当します。毎年4月に、入部希望者に説明会を行い、親の承諾を経て入部します。

主な活動は川遊び、清掃活動、水質調査、生物の世話、ピオトープの整備、環境イベントでの活動紹介、アウトドアクッキングなどです。4年生の総合の時間の活動をさらに発展させた活動に取り組んでいます。

活動によっては、地域や家庭と共に取り組み、安全面にも気を配りながら地域ぐるみで活動しています。

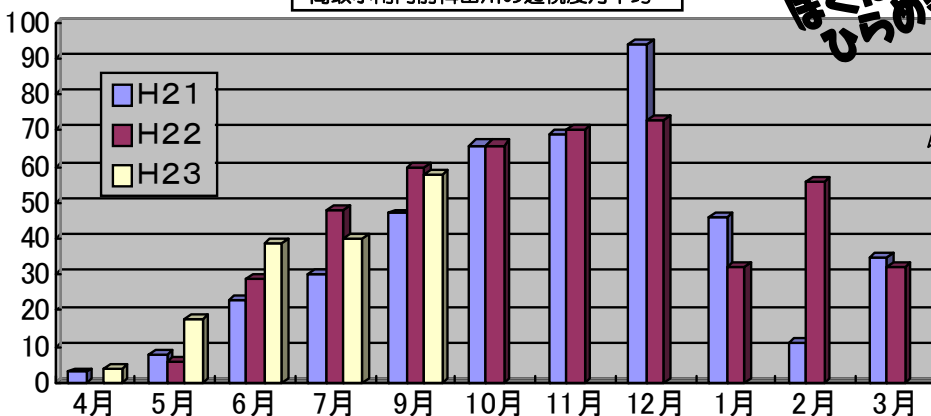
1 水質調査について

- ①毎朝当番制で、高取小南門前の稗田川の透視度調査と川の様子、生き物の様子の記録
- ②月に1度、部員全員で、水温・気温、色、匂い、透視度、COD、pH、亜硝酸態窒素などの項目の調査を行う（油ヶ淵市民モニタリングの水質調査）
- ③市役所市民生活グループの方と鮫川での水質調査と水生生物調査、流速も計測

①毎朝の透視度調査

(cm)

過去2年間と本年度9月までの
高取小南門前稗田川の透視度月平均



ほくたちの
ひらめき

- ◎過去のデータと比べあわせてわかること
- ・11月12月をピークとして透視度は上がったり下がったりしていく。
- ・天候に左右されるが、月平均の透視度は過去2年と大きな変化はない。
- ・4月5月は田植えの影響で泥水が流れ込み、透視度も下がる。
- ・1月から再び透視度が下がるということは、水温と透視度はあまり関係していないとわかった。違うことが濁り具合を決めるのだろう。

②月1回の部員全員で行う水質調査

毎月1回、部員全員で法響橋と前橋の下、生活排水と川の水があわせる所の水をくみ、詳しく水質調査を行っています。調べる項目は、天気、水温・気温、色、におい、COD濃度（低濃度・高濃度）、透視度、pH（ペーハー）、亜硝酸態窒素濃度です。また、川の様子、生き物の様子をみんなで話し合いながら記録しています。

また今年も、正確にきちんと水質調査ができるように、水地盤環境課の方にお越しいただき、その調査の方法、また水質調査をする意味などを教えていただきました。



正確に水質調査をするための方法を教えていただきました。

	天気	水温	気温	匂い	色	COD	透明度	PH	亜硝酸	天気	水温	気温	匂い	色	COD	透明度	PH	亜硝酸
5月	小雨	19	21	はっきり	黄	13	7	6.5	0.02	小雨	20	21	かすかに	緑	15	7	6	0.02
6月	晴	23	28	かすかに	黄	15	44	6	0.05	晴	24	28	はっきり	黄	13	38	6	0.02
7月	曇	28	36	なし	黄	8	45	6.5	0.025	曇	27	36	かすかに	灰	13	59	6.5	0.2
8月	晴	26	30	はっきり	黄	20	24	7	0.5	晴	24	30	かすかに	なし	15	44	6.5	0.01

◎2つの地点を見比べてわかっていくこと。

- ・場所も隣り合わせなので、2つの地点の水質に大きな違いはあまりない。しかし、前橋の水質の方が安定しているように見える。
- ・どちらもCOD濃度が8以上になっていて比較的高い数値になっている。

ほくたちの
ひらめき

③市役所市民生活グループの方と鮫川での水生生物調査

夏休みに入って初めての活動日であった7月26日(火)に、高浜市役所市民生活グループの方々と鮫川(稗田川の分流)にて水生生物調査を行いました。初めは2グループに分かれて、それぞれでバケツに水をくみ、水質調査をしました。普段は行っていない、流速の調査もしました。カメラのフィルム入れにたこ糸をつけ、一定の距離に行き止まるまでの時間を計り、速さを計測しました。その後、3人一組になり、岩や石の下をタモですくって小さな生き物を捕まえました。とった直後にすぐには見つからない生き物もいるので、生えている藻や植物ごと採取しました。取り終わった後は、再び学校に戻ってきて、グループごとで、顕微鏡を使い、指標生物の表を見比べながら、生き物を観察しました。

昨年まではウズムシが数多くいましたが、今年はウズムシは少なく、ヒルが数多く生息していました。ミズムシもたくさんいました。指標生物の見比べはとても難しいのですが、みんなの結果をまとめて判定すると、大変汚い水という結果が出てしまいました。



ほくたちの
ひらめき

ウズムシが減っていました。見た目ではあまり変わらないようですが…

◎水生生物調査を振り返って

- ・水質調査は普段からやっているのでスムーズにやれた。流速を計るのは今度の活動でもやってみよう。
- ・一人で数えるのは大変だけどみんなで数えたので楽しくやれた。
- ・ホタルは、めったにとれないことがわかった。

2 清掃・浄化活動

- ①川遊びを行う前の週に、部員みんなで川に入って掃除を行う
- ②春と秋に開催されるカルガモ会主催「稗田川・鮫川清掃」に参加
- ③ピオトープにて、竹すみ浄化、植物による浄化を実践

①部員みんなで稗田川の清掃

稗田川にはビニールのごみ、紙ゴミ、空き缶、陶器の破片、ペットボトルなどのごみが多く落ちています。川をきれいにするためはもちろん、安全に川遊びをすることのためにも掃除を行っています。掃除の仕方は、川に入って金ばさみや手袋で拾う人、それを土手で受け取る人、ごみを学校のごみ倉庫前まで運ぶ人、倉庫前で燃えるごみ燃えないごみに分別する人などの役割分担をして取り組んでいます。ごみを分別することも大変な作業です。



高取小学校第2校歌 作詞 高取小学校4年生
「ふるさとの川稗田川」 作曲 豊永淳一郎先生

窓から見える風景 校庭を走る風
高いボプラの向こうに 流れる稗田川
春はサクラ菜の花 秋は彼岸花
見慣れたこの景色が ほくらの宝物さ

いつの日かほくらも大人になる それぞれの道を歩み始める
けれど今 思い出は胸に残る ふるさとの川稗田川

いつまでもいつまでも 美しいふるさと
ほくたちが遊んだ ふるさとの川稗田川

流れる水の冷たさ 両足に感じながら
夢中になって魚を 追い掛けたそんな日々
コブナやタナゴ、カルガモ大きなコイの群れ
たくさん命あふれる ほくらの稗田川

いつの日かほくらも大人になる それぞれの道を歩む日が来る
けれど今 思い出は胸に残る ふるさとの川稗田川

いつまでもいつまでも 美しいふるさと
ほくたちが遊んだ ふるさとの川稗田川

②カルガモ会主催「稗田川・鮫川清掃」

4月の始めと9月の中旬に催される地域のイベントです。ひえ田川クラブはもちろん、全校の子に呼びかけて参加しています。今年の春は、約50名ほどが参加しました。9月の掃除には、1年生の子も多く参加してくれました。

掃除の後は参加した子供みんなで、本校第2校歌である「ふるさとの川稗田川」を合唱します。地域の皆さんはこの歌を楽しみにしてくれています。中には、涙まで流して真剣に聞いてくれる方もいます。



カルガモ会の方とは、長年一緒に活動をさせてもらっています。9月の掃除には50名子どもが参加をしました。



③竹すみ、植物による浄化活動

ピオトープで竹すみ浄化とアシによる浄化をしています。稗田川にも水辺にアシやその他の植物が生えてきて、以前よりもより自然あふれる風景になってきています。ピオトープでアシが増えたら、稗田川にうつしていきたいと思えます。



←アシが自生してきました。

3 川遊び、自然体験的活動

- ①川にはいって生き物を捕まえたり、泳いだり、飛び込んだりする遊び
- ②稗田川をたどって、その行き先を調べ、現地の調査をする衣浦港での釣り
- ③「自分達の手」でいちから作り上げていくアウトドアクッキング
- ④稗田川の「モノ」を使って楽しむクラフト遊び

①生き物を捕まえたり、泳いだり飛び込んだりする川遊び

ひえ田川クラブの活動の中で、一番の柱となっているのが川遊びです。5月の下旬あたりから川に入ります。気温が温かくなってきたら、水着になって、全身ずぶ濡れになるくらい、めいっぱい遊びます。タモを持って仲間と一緒に魚を追い込んで捕獲したり、流れにのって、又は逆らって泳いだり、勢いをつけて飛び込んだりと工夫して遊んでいます。捕まえた生き物は稗田川水族館で飼育したり、すぐに逃がしてあげたりします。遊ぶ場所は浅瀬の流れが穏やかなところで、普段、川底の掃除をしている安全な場所で遊びます。川遊びをみんなですることで、違う学年の部員同士が仲良くなることができます。

②稗田川をたどって、衣浦港での釣り

4年生の学習では「稗田川はどこから来てどこへ流れていくのか」という疑問を解決するため、稗田川の土手を歩いて上流下流へと出かけ、ヘトヘトになりながら調べてきます。ひえ田川クラブでは、この学習を深める活動として、稗田川の下流で魚釣りをする活動を取り入れました。稗田川はやがて高浜川という大きな川と合流して、やがて衣浦港という海へ出ます。その高浜川と衣浦港の境目あたりで、「ママカリ」という魚をねらって釣りをします。自転車で出かけます。今年は8月18日に行い、部員25名、保護者10名、顧問4名で合計250匹も釣ることができました。釣れた魚はみんなでわけて、それぞれの家庭で調理して食べました。おなかもちもち満腹になった一日となりました。

③「自分達の手」で作り上げるアウトドアクッキング

夏休みと冬休みに入る1日前、授業がお昼までなので、昼食を食べて部の活動を行います。この昼食は弁当ではなく、自分達の手で昼食を作るアウトドアクッキングに挑戦しています。昨年は、夏は「竹筒ご飯作り」冬は「手作りうどん作り」、今年は夏に「サバイバル飯作り（空き缶をつかって）」を行いました。

この活動は、自らの手で食事を作り上げる苦労と喜びを味わうことと、環境を汚さない工夫をすることの大切さを感じることを目的として行っています。川の環境と「食」とが関係していることに気づいてほしいと思います。

④稗田川の「モノ」を使って楽しむクラフト遊び

稗田川には様々な「モノ」があります。それは、自然のモノのみならず、ごみのようなモノなどです。自然のモノといえば、草や木、枯れ葉、木の実などがあります。部の活動としてこれまで、これらのモノを使ってクラフト遊びや草木染めなどを行ってきました。また、自然のモノではなく、ごみのようなモノも拾い、それらを材料として、「ひえ田川アート」という作品作りにも挑戦しました。完成した作品は、授業参観にて、お家の人や地域の人に見ていただきました。落ちていればごみ、それを材料として生かせば、様々な効果を生む不思議さを感じました。



部の活動の中心となっているのが川遊び。学年入り混ざって楽しく遊びます。



空き缶と牛乳パックを使って、ご飯を炊きました。カンを切るのが大変でした。

◎川遊び、自然体験活動を振り返って

- ・川遊びをしていると、上から見ていただけだと見あたらなかったごみも、近くからだよく見えた。遊びながらごみを集めていた。
- ・えさをつける釣りではなかったけれど、仕掛けの釣りで釣れると驚いた。釣れたときにはりを外すのに苦労した。手づかみで魚を触ったのは初めてだった。
- ・空き缶を使ってお米が炊けるなんて知らなかった。牛乳パックを切ったモノを燃料として燃やしていくのはおもしろかった。カッターでアルミ缶を切るのが一番大変だった。
- ・稗田川に落ちているごみを使って、作品が作れるのはびっくりした。グループのみんなとどんな形にしようか話し合っ、とんとんできていくのが楽しかった。

ほくたちの
ひらめき



昨年度は竹を使って、「竹筒ごはん」を作りました。火加減がとてもおもしろかったです。



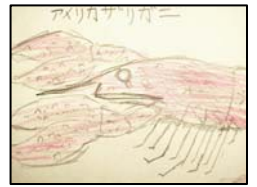
保護者で魚釣り「ママカリ釣り」をしました。たくさんのお家の人へ手伝わってもらいました。



草木染めです。

4 生き物の世話、ビオトープの整備

- ①毎朝の水質調査と共に行う、「稗田川水族館」での活動
- ②ハイケボタルの飼育とビオトープ「希望の池・ホタルハウス」への放流
- ③ビオトープ「希望の池」「愛知池」の整備



①「稗田川水族館」での活動

川遊びで捕獲した魚などの一部は、学校のいくつかある大きな水槽へ連れてきて大切に飼育しています。学校で稗田川の魚を飼育することで、今、稗田川にはどんな魚がいるのかを全校の子に知らせることができます。また、知るだけではなくて、愛着を持つこともできます。入学して間もない1年生も、その水槽の魚たちを眺めながら、目を輝かしています。

現在飼育している生き物は、コイ、ニゴイ、カマツカ、チチブ、モロコ、オイカワ、ギンブナ、ドジョウ、ナマズ、ミシシビアカミミガメ、クサガメです。毎日電気をつけ、エサをやり、健康の状態をチェックしています。掃除の時間には、担当の子が水を補充したり、替えたりもしています。世話の仕方は、本やインターネットで調べ、部員全員が世話できるように取り組んでいます。



全校の子が稗田川の生き物とふれあうための大切な設備です。毎朝当番制でエサやり、魚の様子を記録などを行っています。

③ビオトープ「希望の池」と「愛知池」の整備

今から12年前、当時の6年生が中心となってビオトープである「希望の池」が完成しました。またそれよりももっと前に愛知県の名を冠した池「愛知池」が完成しました。月日が経つと、整備されていた池も、だんだんと汚れたり、壊れたりしてきます。

これまで、ひえ田川クラブでは、これらの池の整備を行ってきました。そこにたまっているヘドロを書き出したり、水と陸との境目に土をいれたり、木を挟んだりしました。また、看板も壊れてきてしまったため、新しく作り直したりもしました。

ホタルを放流する時期になると、ホタルハウスの中にザリガニが入ってしまうと、幼虫が食べられてしまうので、ザリガニを捕獲し、稗田川に移動させました。また、浮き草が大量発生してしまったときには、タモですくい出しました。

最近では、水の浄化作用のあるアシも自生し、一時期の汚れている池から生き物が数多く棲むようになった池に変わってきました。生息している生き物は、ザリガニ、カダヤシ、ウシガエル、ツチガエルなどです。外来種の生き物が多いのですが、メダカが繁殖する池になることを目指して頑張っています。

②ハイケボタルの飼育とビオトープへの放流

高取小学校では、4年生の総合でハイケボタルの飼育と放流の活動を取り入れてきました。この活動には、碧南市の「フッチーホタルの会」の皆さんの協力の下、行ってきました。

数匹の幼虫を里親として預かり、毎年5月5日には、碧南市油ヶ淵遊園の放流へお返しをする活動をしてきました。そして、そのお返しをする一部のホタルは、学校のビオトープである「希望の池・ホタルハウス」へ放流してきました。学校でも毎年ビオトープにて15匹ほどのホタルが成虫へと羽化し、見事な光を見せてくれるようになりました。

そして、昨年からは、4年生だけの取り組みだけではなく、ひえ田川クラブも一緒になって飼育、放流を行うことになりました。これにより、もっと継続的で充実した活動になることを目指しています。

そして今年の活動では、成虫になったホタルからたまごも取り出し、次の世代の幼虫の繁殖にも成功しました。夏場の気温が高いときには、コンピューター室のクーラーが効いているところへ移動し、飼育しました。9月になって涼しくなってきたら、稗田川水族館の方へ移動しました。来年度は、高取小で生まれたホタルたちが、ホタルハウスで成虫になってくれることを楽しみにしています。



放流したホタルが、今年は成虫になり次の世代を残してくれました。卵は大切に稗田川水族館で育てています。



ビオトープ「希望の池」と「ホタルハウス」の環境整備



5 地域への発信

- ①環境イベントでの活動紹介
- ②看板・チラシ作り
- ③全校体制で地域に発信をしていく「稗田川の日」の制定



①環境イベントでの活動紹介

これまでひえ田川クラブでは、地域の環境イベントにて活動の紹介を発表形式で行ってきました。「(株)デンソー主催のワークショップ『エコレンジャー』」、「水は生きている2008」、「アクション油ヶ淵(H18、H22)」などに参加してきました。それに向けて、夏休みや休み時間、朝早く来て発表の練習をしました。

昨年度は、「アクション油ヶ淵」での発表と、COP10での取り組みパネルと生き物マップ作りに参加しました。COP10では、高取小学校以外の学校でも、様々な自然と共に歩む活動がなされていると知ることができました。やってみたい活動もありました。

今年は、いつもお世話になっている「フッcherホテルの会」の総会にて活動発表を行いました。また、FM愛知「レッツエコメンド」で取材をしていただいたり、地元の新聞「タンポポニュース」に掲載していただいたりもしました。取材を受ける度に、部の活動を地域に知ってもらえることができると共に、部員自身も、自分達のやっていることに自信をもつことができるようになりました。



「フッcherホテルの会総会」にて活動発表



アクション油ヶ淵 in 高取での活動発表



FM愛知「レッツエコメンド」のラジオ出演

②看板・チラシ作り

自分達の活動を地域に発信していくと共に、稗田川の現状を知ってもらい、地域の人にも川を汚さない活動をしてもらうために看板作りを行いました。また、校区の4つの地区の回覧板に自分達で作ったチラシをはさんでいただきました。

地域の人からお電話やお手紙もいただき、私たちが活動することの意義を感じました。



タンポポニュース 2010.8.14より

③全校体制で地域に発信をしていく「ひえ田川の日」の制定



本年度から、高取小の特色をもっと全校ををあげて取り組んでいこうということで、10月20日に「ひえ田川の日」というものが制定されました。この日は、1年生から6年生までが一緒になって、稗田川で遊んだり、稗田川の自然環境のことを考えたりする日にしようと準備中です。かるがも会さんを講師として招き、昔の稗田川についてのお話もしていただきます。また、ひえ田川クラブは、稗田川の土手で6カ所のポイントを設け、遊んだり、作ったりするお店を出す予定です。約600人の全校の子は、お店を周りながら土手の散策をする「ウォークラリー」を行います。ひえ田川クラブで考えているお店は「段ボールで土手滑り」「秋のモノを使ったハンドクラフト」「文字探しゲーム」「わりばしで魚釣り」「しぜんめいろ」を計画中です。



児童会と力を合わせて全校を動かしています。

★水質パトロールの感想★

- ①川が汚れるのはどうしてだろう
 - ・油や洗剤を使いすぎる人がいるから。
 - ・生活排水が流れ込んでいるから。
 - ・食べ残しをするから。
 - ・ごみをすぐに捨てるから。
 - ・工事で泥などが流れ込んでくるから。
 - ・田んぼの水が流れ込んでいる。
- ②川を汚さないために私たちができることは何だろう
 - ・油や醤油、飲み物などは必要な文だけ注ぐ。
 - ・食べ残しをしない。食べ残したらラップをして違う日になるべく食べる。
 - ・ポイ捨てをしない。ごみをあまり出さない。町の人に呼びかける。
 - ・洗剤を減らす。
 - ・水の使用量を減らす。
 - ・カレーなどはふきとって洗う。
 - ・看板をつける。
- ③身近な川をしらべて感じたこと
 - ・今年はメダカを稗田川で見つけた。とてもうれしかった。
 - ・川遊びをして気持ちよかった。
 - ・みんなが少しずつ川を汚していると思う。だから一人一人が気づきをしないといけない。
 - ・周りが田んぼなので、米を作る時期は水が汚れる。
 - ・水の冷たさを知った。 ・魚が意外にもたくさんいた。
 - ・稗田川の汚れに気づいた。 ・食べ残したらいけないんだと分かった
 - ・水の透視度はだんだん上がってきた。

ぼくたちの
ひらめき



自分たちで実際にやってみて、改良点など話し合いを進めています。

